

卓越大学院プログラム 事後評価調書 プログラムの基本情報 [公表。ただし、項目12、13については非公表]

機関名		長崎大学		採択年度	平成30年度	整理番号	1814
1	プログラム名称	世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム					
	英語名称	Global Health Elite Programme for Building a Healthier World					
	ホームページ (URL)	https://www.wise.nagasaki-u.ac.jp/					
2	全体責任者 (学長)	ふりがな 氏名 (職名)	ながやす たけし 永安 武 (長崎大学学長)	※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学 (連合大学院によるものは基幹大学) の学長名に下線を引いてください。			
3	プログラム責任者	ふりがな 氏名 (職名)	きた きよし 北 潔 (長崎大学大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科長)				
4	プログラムコーディネーター	ふりがな 氏名 (職名)	ありよし こうや 有吉 紅也 (長崎大学 熱帯医学研究所 教授)				
5	設定する領域	最も重視する領域【必須】	②社会において多様な価値・システムを創造するような、文理融合領域、学際領域、新領域				
		関連する領域 (1)【任意】	なし				
		関連する領域 (2)【任意】	なし				
		関連する領域 (3)【任意】	なし				
6	主要区分	最も関連の深い区分 (大区分)	I				
		最も関連の深い区分 (中区分)	58	社会医学、看護学およびその関連分野			
		最も関連の深い区分 (小区分)	58020	衛生学および公衆衛生学分野関連：実験系を含む			
		次に関連の深い区分 (大区分)【任意】	I				
		次に関連の深い区分 (中区分)【任意】	54	生体情報内科学およびその関連分野			
		次に関連の深い区分 (小区分)【任意】	54030	感染症内科学関連			
7	授与する博士学位分野・名称	博士 (グローバルヘルス), 博士 (医学), 博士 (歯学), 博士 (薬学), 博士 (学術), 博士 (工学), 博士 (環境科学), 博士 (水産学), 博士 (経営学), 博士 (薬科学), 博士 (公衆衛生学), 博士 (情報データ科学)					
8	学生の所属する専攻等名 <small>(主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)</small>	【以下、すべての研究科・専攻は長崎大学】 多文化社会学研究科多文化社会学専攻, 経済学研究科経済経営政策専攻, 経済学研究科経営意思決定専攻, 工学研究科総合工学専攻, 工学研究科生産システム工学専攻, 工学研究科グリーンシステム創成科学専攻, 水産・環境科学総合研究科水産学専攻, 水産・環境科学総合研究科環境科学専攻, 水産・環境科学総合研究科環境海洋資源学専攻, 医歯薬学総合研究科保健学専攻, 医歯薬学総合研究科災害・被ばく医療科学共同専攻, 医歯薬学総合研究科医療科学専攻, 医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学系専攻, 医歯薬学総合研究科放射線医療科学専攻, 医歯薬学総合研究科先進予防医学共同専攻, 医歯薬学総合研究科生命薬科学専攻, 熱帯医学・グローバルヘルス研究科グローバルヘルス専攻, 熱帯医学・グローバルヘルス研究科長崎大学ーロンドン大学衛生・熱帯医学大学院国際連携グローバルヘルス専攻, プラネタリーヘルス学環, 総合生産科学総合研究科総合生産科学専攻					
9	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 <small>※ 該当する場合には○を記入</small>			10 本プログラムによる学位授与数 (年度当たり) の目標 <small>※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。</small>			
	連合大学院		共同教育課程	8名			
11	連携先機関名 (他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)						
ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院 (LSHTM), 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター, 帯広畜産大学原虫病研究センター, 東京大学医学系研究科, 国立国際医療研究センター (NCGM), 国立感染症研究所, 国際協力機構 (JICA), シスメックス株式会社, 塩野義製薬株式会社							

[公表]

14 プログラム担当者一覧								※「年齢」は公表しません。
番号	氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	リポート(割合)
1	北 潔	キタ ユキヨシ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・研究科長	薬学博士	寄生虫学, 生化学	プログラム責任者, 事業統括マネジメント, 学位プログラム改革委員, 卓越大学院運営委員, グローバルヘルスプログラム運営委員, 講義(病原微生物学III) 研究指導(寄生虫学・生化学)	3
2	有吉 紅也	アリヨシ コウヤ		長崎大学・熱帯医学研究所・教授	医学博士	臨床熱帯医学	プログラムコーディネーター, 学位プログラム改革委員, 卓越大学院運営委員, グローバルヘルスプログラム運営委員, 卓越合同学務委員, 講義(熱帯医学基礎, 病原微生物学, 臨床熱帯医学), 研究指導(臨床熱帯医学)	3
3	中村 典生	ナカムラ ノリオ		長崎大学・教学担当理事・教務担当副学長	修士(教育学)	言語学, 教科教育学	卓越大学院運営委員長	1
4	門司 和彦	カドモリ カズヒコ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授	保健学博士	人類生態学・熱帯公衆衛生学	講義(グローバルヘルス・ヘルスプロモーション), 研究指導(人類生態学・熱帯公衆衛生学)	2
5	神谷 保彦	カミヤ ヤスヒコ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授	博士(医学)	小児保健・緊急援助	講義(グローバルヘルスI, 小児保健, 緊急援助), 研究指導(国際地域保健学, 保健政策・マネジメント関連)	3
6	Sharon Cox	シャロン コックス		ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・客員准教授	PhD	Nutrition and Infection, Maternal and child health	講義(疫学・統計学・栄養), 研究指導(Nutrition and Infection, Maternal and child health)	2
7	Christopher Smith	クリストファー スミス		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授	PhD	Clinical Medicine & Epidemiology	研究指導(Clinical Medicine & Epidemiology)	2
8	相賀 裕嗣	アイガワ ヒロツグ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授	保健学・博士	国際保健政策学	講義(グローバルヘルス・保健システム・食糧安全保障と栄養), 研究指導(保健システム・保健政策)	2
9	遠山 峰司	トヤマ タカシ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授	修士(水産学)	国内外実務経験(大洋州・農村開発)	講義(開発援助)	1
10	由井 克之	ユイ カツユキ		長崎大学大学院・医歯薬学総合研究科・教授 長崎大学大学院・熱帯医学研究所・特命教授	医学博士	感染免疫学	講義(免疫学), 研究指導(感染免疫学)	1.5
11	平山 謙二	ヒラヤマ ケンジ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授	博士(医学)	免疫遺伝学	講義(免疫学, バイオテクノロジー), 研究指導(免疫遺伝学)	1
12	松井 三明	マツイ ミツアキ		神戸大学大学院・保健学研究科・教授	博士(医学)	リプロダクティブヘルス・母子保健学	研究指導(リプロダクティブヘルス・母子保健学)	1
13	増田 研	マサダ ケン		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・准教授	博士(社会人類学)	医療人類学	講義(医療人類学), 研究指導(医療人類学)	1.5
14	佐藤 美穂	サトウ ミホ		長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・准教授	博士(医学) 修士(公衆衛生)	衛生学・公衆衛生学	講義(ヘルス・プロモーションI・II, 社会調査(質的), 混合研究法), 研究指導(衛生学, 公衆衛生学)	2
15	Chris Ng Fook Sheng	クリス ウン フック シェン		東京大学大学院医学系研究科 国際保健学専攻国際社会医学講座・准教授	博士(保健学)	生物統計学	講義(疫学, 統計学), 研究指導(生物統計学, 環境疫学)	0.5
16	Xerxes Seposo Tesoro	サークセス セボソ テソロ		北海道大学大学院・医学研究院 社会医学分野・准教授	PhD Environmental Epidemiology	環境疫学	講義(疫学, 統計学), 研究指導(生物統計学, 環境疫学)	0.5
17	金子 修	カネコ オサム		長崎大学・熱帯医学研究所・教授	博士(医学)	寄生虫学・マラリア分子生物学・集団遺伝学	講義(病原微生物学II(病原性原虫)), 研究指導(寄生虫学・マラリア分子生物学・集団遺伝学)	1
18	金子 聡	カネコ サトシ		長崎大学・熱帯医学研究所・教授	博士(医学)	疫学・情報学	講義(社会起業論), 研究指導(疫学・情報学)	3
19	皆川 昇	ミナカワ ノボル		長崎大学・熱帯医学研究所・教授	PhD	病害動物学	研究指導(病害動物学)	3

[公表]

14 プログラム担当者一覧(続き)								
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	リポート(割合)	
20	橋爪 真弘	ハシヅメ マサヒロ	東京大学大学院医学系研究科 国際保健学専攻国際社会医学・ 教授	博士(医学)	疫学	卓越大学院運営委員, 卓越合 同学務委員, 講義(疫学, 統 計学), 研究指導(疫学)	2	
21	濱野 真二郎	ハマノ シンジロウ	長崎大学・熱帯医学研究所・教 授	博士(医学)	寄生虫学・免疫 学	講義(病原微生物学Ⅱ), 研 究指導(寄生虫学・免疫学)	1	
22	森田 公一	モリタ コウイチ	長崎大学・感染症研究出島特 区・特区长	医学博士	ウイルス学	講義(病原微生物学Ⅰ), 研 究指導(ウイルス学)	1	
23	吉田 レイミント	ヨシダ レイミント	長崎大学・熱帯医学研究所・教 授	医学博士	感染症学	研究指導(感染症学)	1.5	
24	樋泉 道子	トイズミ ミチコ	長崎大学・熱帯医学研究所・准 教授	博士(医学)	小児科学・疫 学・小児感染症 学	研究指導(小児科学, 疫学, 小児感染症学)	1	
25	加藤 健太郎	カトウ ケンタロウ	長崎大学・熱帯医学研究所・准教 授	博士(薬 学)	生化学・寄生 虫学	研究指導(生化学, 寄生 虫学)	0.5	
26	Lina Madaniyazi	リナ マダニヤズィ	長崎大学・熱帯医学・グロー バル研究科・准教授	PhD	環境疫学	研究指導(環境疫学)	0.5	
27	泉川 公一	イズミカワ コウイチ	長崎大学大学院・医歯薬学総合 研究科・教授	博士(医学)	感染制御学・真 菌学	研究指導(感染制御学, 真 菌学)	1	
28	川上 純	カガミ ジュン	長崎大学大学院・医歯薬学総合 研究科・教授	医学博士	リウマチ・膠原 病内科学	グローバルヘルスプログラム 運営委員, 研究指導(リウマ チ・膠原病内科学)	0.5	
29	西田 教行	ニシダ ケイユキ	長崎大学大学院・医歯薬学総合 研究科・教授	博士(医学)	ウイルス学	卓越大学院運営委員, 卓越合 同学務委員, 研究指導(ウイ ルス学)	2	
30	山梨 啓友	ヤマノ ヒロトモ	長崎大学大学院・医歯薬学総合 研究科・准教授	博士(医学)	総合診療学・臨 床感染症学・ Frailty, sarcopenia, multimorbidity	研究指導(総合診療学, 臨床 感染症学)	1	
31	河村 有教	カムラ アリノリ	長崎大学大学院・多文化社会学 研究科・准教授	博士(法 学)	新領域法学・刑 事法学	研究指導(新領域法学, 刑事 法学)	1	
32	相楽 隆正	サカガキ タカマサ	長崎大学大学院・工学研究科・ 教授	博士(工 学)	電気化学・界面 科学・動的ソフ トマター	研究指導(電気化学, 界面科 学, 動的ソフトマター)	0.5	
33	木村 正成	キムラ マサナリ	長崎大学大学院・工学研究科・ 教授	博士(工 学)	有機化学・合成 化学	研究指導(合成化学)	2	
34	中野 正基	ナカノ マサキ	長崎大学大学院・工学研究科・ 教授	博士(工 学)	電気電子材料工 学・磁性材料・ 磁器デバイス	研究指導(磁性材料, 磁器デ バイス)	0.5	
35	上田 太郎	ウエダ タロウ	長崎大学大学院・工学研究科・ 助教	博士(工 学)	ガスセンサ・機 能性セラミックス	研究指導(ガスセンサ, 機能 性セラミックス)	0.5	
36	田原 弘宣	タハラ ヒロノブ	長崎大学大学院・工学研究科・ 助教	博士(工 学)	電気化学・物理 化学	研究指導(電気化学, 物理 化学)	0.5	
37	中川 啓	ナカガワ ケイ	長崎大学大学院・水産・環境科 学総合研究科・教授	博士(工 学)	水文学・水工学	研究指導(水文学・水工学)	0.5	
38	丸山 真純	マルヤマ マサムネ	長崎大学大学院・経済学研究 科・准教授	博士(コ ミュニケー ション)	社会学・異文化 コミュニケーション	研究指導(社会学, 異文化コ ミュニケーション)	0.5	
39	森保 妙子	モリヤス タエコ	長崎大学・グローバル連携機 構・助教	博士(医学)	寄生虫学・熱帯 医学・行動経済 学	研究指導(寄生虫学, 熱帯医 学, 行動経済学)	0.5	
40	Liam Smeeth	リアム スミース	ロンドン大学衛生・熱帯医学大 学院・学長	Medicine・ PhD	Genetic epidemiology, P harmacoepidemi ology, Epidemio logy	アドバイザー	0.5	
41	Peter Piot	ピーター ピョット	ロンドン大学衛生熱帯医学大 学院・前学長	医学博士	熱帯医学・ウイ ルス学	アドバイザー	0.5	
42	Anne Mills	アン ミルズ	ロンドン大学衛生熱帯大学院・ 公衆衛生・政策研究科・教授・ 副学長	PhD	Public Health, Health economics	アドバイザー	0.5	
43	Brian Greenwood	ブライアン グリーン ウッド	ロンドン大学衛生熱帯医学大 学院・熱帯感染症研究科・教授	医学博士	熱帯医学	アドバイザー	0.5	
44	Beate Kampmann	ビェテ カンプマン	ロンドン大学衛生熱帯大学院・ MRCガンビア研究拠点・教授・ワ クチン免疫部門長	PhD	Vaccinology, Immunology, Pediatrics	研究指導(Vaccinology, Immunology, Pediatrics)	0.5	
45	John Edmunds	ジョン エドモンズ	ロンドン大学衛生熱帯大学院・ 疫学集団健康研究科・教授	PhD	Mathematical Modeling, Epidemiology	卓越合同学務委員, 研究指導 (Mathematical Modeling, Epidemiology)	0.5	

[公表]

14 プログラム担当者一覧（続き）								
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	コメント(割合)	
46	John Morrison Kelly	ジョン モリソン ケリー	ロンドン大学衛生熱帯大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Parasitology, Molecular Biology, drug development	研究指導 (Parasitology, Molecular Biology, drug development)	0.5	
47	Kim Mullholland	キム ムルホランド	ロンドン大学衛生熱帯大学院・疫学集団健康研究科・教授	PhD	Vaccinology, Tropical Child Health	卓越合同学務委員, 研究指導 (Vaccinology, Tropical Child Health)	0.5	
48	Ian Roberts	イアン ロバーツ	ロンドン大学衛生熱帯大学院・疫学集団健康研究科・教授・臨床治験センター長	PhD	Clinical Trial	研究指導 (Clinical Trial)	0.5	
49	Christopher John Drakeley	クリストファー ジョンドラックレイ	ロンドン大学衛生熱帯大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Immunology, Malariaology	研究指導 (Immunology, Malariaology)	0.5	
50	Martin L. HIBBERD	マチン エル ヒバート	ロンドン大学衛生熱帯大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Emerging Infectious Diseases, Genome Research	研究指導 (Emerging Infectious Diseases, Genome Research)	0.5	
51	Umberto D' Alessandro	ウンベルト デアレクサンドロ	ロンドン大学衛生熱帯大学院・熱帯感染症研究科・教授・MRCガンビア研究拠点長	PhD	Malariaology, Epidemiology	研究指導 (Malariaology, Epidemiology)	0.5	
52	David Mabey	デービッド メイビー	ロンドン大学衛生熱帯大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Tropical Infectious Diseases	研究指導 (Tropical Infectious Diseases)	0.5	
53	Robin Bailey	ロビン ベイリー	ロンドン大学衛生熱帯大学院・熱帯感染症研究科教授・臨床熱帯医学修士専攻長	PhD	Tropical Medicine, Infectious Diseases	研究指導 (Tropical Medicine, Infectious Diseases)	0.5	
54	Simon Croft	サイモン クラフト	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Cell biology, Parasitology, Pharmacology	研究指導 (Cell biology, Parasitology, Pharmacology)	0.5	
55	Anna Vassall	アナ ヴァッセル	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・公衆衛生・政策研究科・教授	PhD	Health Economics	研究指導 (Health Economics)	0.5	
56	Oona Campbell	オナ キャンプベル	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・疫学集団健康研究科・教授	PhD	Epidemiology, Reproductive Health	研究指導 (Epidemiology, Reproductive Health)	0.5	
57	Mark Rowland	マーク ローランド	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Medical Entomology, Malaria Control	研究指導 (Medical Entomology, Malaria Control)	0.5	
58	Antonio Gasparrini	アントニオ ガスパリーニ	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Biostatistics, Epidemiology	研究指導 (Biostatistics, Epidemiology)	0.5	
59	Amaya Bustinduy	アマヤ バスティンドゥイ	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Global Paediatric and Adolescent Infectious Diseases	研究指導 (Global Paediatric and Adolescent Infectious Diseases)	0.5	
60	Sanjev Kinra	サンジェイ キンラ	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Clinical epidemiology	研究指導 (Clinical epidemiology)	0.5	
61	Heidi Larson	ハイディ ローソン	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Anthropology, Risk and Decision Science	研究指導 (Anthropology, Risk and Decision Science)	0.5	
62	Kathleen M O' Reilly	キャスリン オーライリー	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・准教授	PhD	Epidemiology	研究指導 (Epidemiology)	0.5	
63	Stefane Hué	ステファン フェ	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Epidemiology, Biostatistics & Bioinformatics	研究指導 (Epidemiology, Biostatistics & Bioinformatics)	0.5	
64	Julius Hafalla	フリウス ハファラ	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Immunology, Parasitology, Vaccinology	研究指導 (Immunology, Parasitology, Vaccinology)	0.5	
65	Matthew Chico	マシュー チコ	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Clinical epidemiology, Public Health	研究指導 (Clinical epidemiology, Public Health)	0.5	
66	Marco Liverani	マルコ リベラーニ	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Health Policy and Systems, Sociology, Social anthropology	研究指導 (Health Policy and Systems, Sociology, Social anthropology)	0.5	

[公表]

14 プログラム担当者一覧（続き）								
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポスト割合	
67	Pauline Patterson	パオリン パターソン	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Epidemiology	研究指導 (Epidemiology)	0.5	
68	Marc Baguelin	マーク バグエリン	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Mathematical Modelling, Epidemiology	研究指導 (Mathematical Modelling, Epidemiology)	0.5	
69	町山 和代	マチヤマ カズヨ	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・助教	PhD	人口統計学	ジョイントディグリー専攻プログラム運営に係るコーディネータ業務、講義 (Epidemiology, Tropical Medicine, Biotechnology)	2	
70	Ai Milojevic	アイ ミロシエビッチ	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・准教授	PhD	環境疫学	講義 (Environmental epidemiology)	1	
71	Christopher Parry	クリストファー パリー	リバプール大学感染症・グローバルヘルス研究所・教授	PhD	熱帯医学	講義 (Tropical Medicine I & II, Medical Microbiology III)	0.5	
72	Tansy Edwards	タンジー エドワーズ	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・准教授	PhD	疫学	研究指導 (疫学統計学)	1	
73	高田 礼人	タカタ レイト	北海道大学・人獣共通感染症リサーチセンター・教授	博士 (獣医学)	ウイルス学	研究指導 (ウイルス学)	0.5	
74	河津 信一郎	カワヅ シンイチロウ	帯広畜産大学・原虫病研究センター・教授	博士 (獣医学)	寄生虫学・分子寄生虫学	研究指導 (寄生虫学, 分子寄生虫学)	1	
75	福本 晋也	フクモト シンヤ	帯広畜産大学・原虫病研究センター・准教授	博士 (獣医学)	節足動物学	研究指導 (節足動物学)	0.5	
76	狩野 繁之	カノ シガユキ	国立国際医療研究センター (研究所・熱帯医学・マラリア研究部)・部長	医学博士	熱帯医学・マラリア学	研究指導 (熱帯医学・マラリア学)	0.5	
77	溝上 哲也	ミゾウエ テツヤ	国立国際医療研究センター・臨床研究センター・疫学・予防研究部・部長	博士 (医学)	疫学	研究指導 (疫学)	0.5	
78	大曲 貴夫	オホマクリ タカオ	国立国際医療研究センター病院・国際感染症センター・副院長	医学博士	臨床感染症疫学	研究指導 (臨床感染症疫学)	1	
79	内橋 欣也	ウチハシ キンヤ	シスメックス株式会社・執行役員・第一エンジニアリング本部・細胞技術グループ部長	工学博士	診断機器・診断薬商品開発	講義 (社会実装モジュール), 研究指導 (社会実装)	1	
80	鈴木 基	スズキ モトイ	国立感染症研究所・感染症疫学センター・センター長	博士 (医学)	感染症疫学・熱帯医学	研究指導 (感染症疫学, 熱帯医学)	1	
81	緒方 利恵	オホタ リエ	長崎大学大学院・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・戦略職員	Master of Arts (文学修士)	文学	海外拠点形成コーディネータ, 卓越プログラム学生の教育研究支援全般	5	
82	久保 嘉直	クボ ヨシナオ	長崎大学・熱帯医学研究所・准教授	博士 (医学)	ウイルス学	研究指導 (ウイルス学)	1	
83	Dhoubhadel Bhim Gopal	ドゥバデル ビム グッパル	長崎大学・熱帯医学研究所・准教授	PhD	感染症内科学	研究指導 (感染症内科学)	1	
84	Veronique Filippi	ヴェルニク フィリッピ	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	疫学・人口統計	研究指導 (母体の健康, 混合方法, 評価, リプロダクティブ・ヘルス, 人口統計, 疫学)	0.5	
85	Kaja Abbas	カジャ アバス	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	感染症疫学	研究指導 (感染症疫学, 感染症のモデリングとダイナミクス, 疫学統計学)	1	
86	Shunmay Yeung	シュンマイ ヨン	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	小児感染症学	研究指導 (小児感染症学)	1	
87	Oliver Cumming	オリバー カミング	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	水, 衛生, 衛生関連疾患の疫学	研究指導 (水, 衛生, 衛生関連疾患の疫学)	0.5	
88	海野 英昭	ウノ ヒデアキ	長崎大学大学院・工学研究科・准教授	博士 (理学)	生化学, 構造生物学	研究指導 (生化学, 構造生物学)	0.5	
89	馬越 啓介	ウマコシ ケイスケ	長崎大学大学院・工学研究科・教授	博士 (理学)	錯体化学	研究指導 (錯体化学, 無機合成化学, 光化学)	0.5	
90	本九町 卓	モトクヨウ タク	長崎大学大学院・工学研究科・助教	博士 (工学)	新規材料創生, 有機合成, グリーンケミストリー	研究指導 (新規材料創生, 有機合成, グリーンケミストリー)	0.5	
91	白川 誠司	シロカワ セイジ	長崎大学大学院・水産・環境科学総合研究科・准教授	グリーンケミストリー	博士 (理学)	研究指導 (環境化学, 有機合成化学)	0.5	

[公表]

14 プログラム担当者一覧（続き）								
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポスト(割合)	
92	木村 眞実	キムラ マミ	長崎大学大学院・経済学研究科・教授	原価計算、 管理会計	商学（博士）	研究指導(原価計算、管理会計)	0.5	
93	宮本 道子	ミヤモト ミチコ	長崎大学・情報データ科学部・教授	ITガバナンス、信用リスク、マーケティング・サイエンス	経営学（博士）	研究指導(ITガバナンス、信用リスク、マーケティング・サイエンス)	0.5	
94	渡辺 知保	ワタナベ チホ	長崎大学・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授	衛生学、環境影響評価・環境政策	保健学（博士）	研究指導(衛生学、環境影響評価・環境政策)	0.5	
95	Louise Tina Day	ルイーズティナ デイ	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	感染症疫学、人口保健	研究指導(リプロダクティブ・ヘルス、熱帯看護学)	0.5	
96	Loveday Penn-kekana	ラブデイベンケカナ	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・准教授	PhD	公衆衛生、妊産婦保健プログラム	研究指導(リプロダクティブ・ヘルス(妊娠中の女性の健康))	0.5	
97	Poppy Mallinson	ポピー マリソン	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	拡張及び非感染性疾患の疫学	研究指導(疫学統計学)	0.5	
98	Stefan Flasche	ステファン フラッシュ	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Communicable disease epidemiology	研究指導(Communicable disease epidemiology)	0.5	
99	Sebastian Funk	セバスチャン ファンク	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	statistical methods	研究指導(statistical methods)	0.5	
100	Bernard Rachet	バーナード ラシェット	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院・熱帯感染症研究科・教授	PhD	Non-communicable Disease Epidemiology	研究指導(Non-communicable Disease Epidemiology)	0.5	
101	宮崎 泰司	ミヤザキ ヤスシ	長崎大学大学院・医歯薬学総合研究科・教授	医学博士	ライフサイエンス、血液・腫瘍内科学	研究指導(ライフサイエンス、血液・腫瘍内科学)	0.5	
102	内藤 真理子	ナイトゥ マリコ	長崎大学大学院・医歯薬学総合研究科・教授	博士(歯学)	ライフサイエンス、常態系口腔科学	研究指導(ライフサイエンス、常態系口腔科学)	0.5	
103	三輪 加奈	ミワ カナ	長崎大学大学院・経済学研究科・教授	博士(経済学)	経済政策、開発経済学	研究指導(経済政策、開発経済学)	0.5	
104	尾本 賢一郎	オノモト ケンイチロウ	長崎大学大学院・工学研究科・助教	博士(理学)	ナノテク、有機化学、錯体化学	研究指導(ナノテク、有機化学、錯体化学)	0.5	
105	大嶺 聖	オオミネ キヨシ	長崎大学大学院・工学研究科・教授	博士(工学)	社会基盤、地盤工学	研究指導(社会基盤、地盤工学)	0.5	
106	板山 朋聡	イタヤマ トモアキ	長崎大学大学院・工学研究科・教授	工学博士	環境動態解析、大気水圏科学	研究指導(環境動態解析、大気水圏科学)	0.5	
107	中山 智喜	ナカヤマ トモキ	長崎大学大学院・水産・環境科学総合研究科・准教授	博士(理学)	環境動態解析、大気水圏科学	研究指導(環境動態解析、大気水圏科学)	0.5	
108	石合 正道	イシアイ マサミチ	長崎大学大学院・医歯薬学総合研究科・教授	博士(理学)	分子生物学、免疫学、医化学	研究指導(分子生物学、免疫学、医化学)	0.5	
109	稲岡 健 ^{カニエル}	イネオカ ケン ^{カニエル}	長崎大学・熱帯医学研究所・教授	博士(薬学)	腫瘍生物学、分子生物学、構造生物学、創薬化学、寄生虫学	卓越合同学務委員、研究指導(腫瘍生物学、分子生物学、構造生物学、創薬化学、寄生虫学)	2	
110	遠藤 彰	エントウ アキラ	シンガポール国立大学公衆衛生大学院・助教	博士(理学)	感染症疫学	研究指導(感染症疫学)	0.5	

成果の概要【2ページ以内】

成果の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

① 特筆すべき成果のあった事項

・本プログラムがもたらした最大の成果は、グローバルヘルス領域で世界最高峰の英国ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院（以下「LSHTM」という。）との戦略的パートナーシップをもとに、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科（以下「TMGH 研究科」という。）を中核母体として推進してきた先進的な学位プログラム「国際連携グローバルヘルス専攻（以下「Joint PhD」という。）」が完成したことである。両大学の合同学務委員会によって同プログラムが安定して運営され、定期的な国際シンポジウム等の活動により、Joint PhD への国内外の注目度が飛躍的に向上したことで、LSHTM、オックスフォード大学、ジョンズ・ホプキンス大学等、世界トップレベルの大学の修士課程修了者を含む世界各国から例年7倍程度の応募があり、真に卓越した学生の確保に繋がった。

・本プログラムを通じて「グローバルヘルス」をキーワードとした全学的・全国的・国際的な連携が進化し、本学に卓越した世界的「グローバルヘルス」教育研究拠点が構築された。学内の運営母体である「グローバルヘルスプログラム運営委員会」は、令和2年度より学内全7研究科の研究科長が参画し、本プログラムは全学に波及している。さらに、本学の医療科学系以外の教員をグローバルヘルス分野の教育研究に繋げる新たな取り組みとして「グローバルヘルス研究支援 Grant」を2020年度に創設し、多文化社会学研究科、経済学研究科、工学研究科、情報データ科学部など多様な学部・研究科の教員が参加した萌芽的研究を含む申請を毎年十数件採択し、全学への波及効果を高めた。

② 計画通り進んでいる事項

・博士前期課程にあたるプログラム2年目までの教育内容は、卓越大学院レベルに則したアドバンスト科目を設けることや、本学教員に加え、TMGH 研究科に常駐する LSHTM 教授のほか、専門的知見を有した多数の招聘講師（LSHTM とのクロスアポイント教員、国内の国際レベルの連携教員、グローバルヘルスで卓越した海外の大学教員（オックスフォード、アントワープ、リバプール、ワシントン等）、国境なき医師団等の NPO 法人、WHO 等国際機関など）が加わって、本プログラムに相応しい卓越したカリキュラムとなった。さらにアジアの疾病に焦点を絞り、TMGH 研究科と LSHTM が共同開発した熱帯医学専門医養成コース「熱帯医学・衛生ディプロマ」は米国熱帯医学・衛生学会から公認され、本学の履修証明プログラムとして社会人に提供されており、毎年、定員（42名）を超える多数の応募がある。このコースに続き、シンガポール大学とのクロスアポイント教員による感染症疫学コースや LSHTM と共同実施するワクチン学コースなど、アドバンスト科目相当のショートコースを立ち上げる準備を進めており、今後もグローバルヘルス分野における本学学生・教員全体のさらなるレベルアップのみならず、社会貢献に寄与することが期待される。

・博士後期課程において、本プログラムが特に教育研究の質を保証する重要なプロセスとして重視してきた QE 審査が順調に実施されている。本プログラムでは、LSHTM と同等の QE 審査を実施するために、国際的に卓越した専門家を外部審査員として積極的に招聘し、学生の研究計画書に関して、毎回約3時間をかけて建設的な議論を行っている。また、Non Joint PhD の学生についても同様の QE 審査を実施している。Non Joint PhD の学生については、互いに切磋琢磨し研究の質を高めるため競争の原理を導入した QE を毎年実施していたが、安定的な経済支援を望む声や過度な負担があったことについて中間評価で指摘されたことから、令和4年度より4年目から5年目の進級時にプログラム正規生は QE 審査を免除し、候補生のみ審査に変更した。

③ 改善が必要な事項

・学長のリードによって運営費交付金より持続的な重点配分があったが、国際レベルの教員の雇用や学生の教育研究支援経費及び研究指導チームへの研究指導経費を、補助期間終了後も、より安定かつ継続的に準備する取組みが必要である。平成 27 年に創設したグローバルヘルス基金（現在は大学全体の基金である「西遊基金」として運用）等を本プログラム継続の資金源とする予定であり、これまで 5000 万円を超える寄付があるが、まだ十分ではない。今後は社員の PhD 取得を希望するグローバル企業やシンクタンク企業に対し企業向け入試枠を設ける等、企業との連携の拡大、ジャーナリストとのコラボレーション、社会にとって有益なシンポジウムの開催等、社会への情報発信・社会貢献を続け、本プログラムの認知度を上げることで寄付金の増額を図りたい。

・年に数名ずつ修了者がでていますが、修了生ネットワークの構築に向けた整備が十分でない。全学的なネットワークを活用した本学からの継続的な情報発信の他、修了生と在学生の交流の場を設け、国際的かつ多様な分野で活躍する様々なロールモデルを在學生に提示すると同時に、修了生の帰属意識を高めることのできる仕組みの構築により、修了後も本プログラムとの関係維持を図り、戦略的な資金調達に繋げたい。

④ プログラムとしての今後の見通し

・Joint PhD の学生が参画する国際連携共同プロジェクトの中には、連携大学をはじめ、国内外の民間企業や国際機関が多く参画しており、グローバルヘルス関連企業・組織における本プログラムへの注目度は高い。今後も、入学選抜で厳選され、評価の高い卓越したグローバルヘルス教育を受け本プログラムの課程を修了した学生に対する社会的ニーズは高いと考える。

・本プログラムの卓越性を全学へ波及させるべく、本学はグローバルヘルスを基軸としたプラネタリーヘルスの推進を掲げ、地球規模の課題に学問領域を超えて全学的に取り組むプラネタリーヘルス学環を 2022 年 10 月に開設した。第一のプログラムである DrPH プログラムでは、本プログラムをモデルとした教育研究活動、QE の実施・審査体制などが整備され、進められている。DrPH プログラムを基盤として、今後はグローバルリスク、グローバルエコロジーを融合させた研究、教育活動による全学的アクションプランの推進のため、本プログラムも一層の機能強化に向けた取組みを進める。

・LSHTM との戦略的パートナーシップについては、2021 年に LSHTM による中間評価が実施され、本学学長・プログラム責任者・コーディネーター・学生がヒアリングを受けた。本パートナーシップと本プログラムへの評価は高く、今後も継続的なパートナーシップを維持し、Joint PhD を中心にグローバルヘルス領域での人材育成に向けた更なる発展及びプログラム継続を目的として、LSHTM との合同運営委員会を拡大した NU-LSHTM 将来構想委員会（学長直下のアドバイザリーボードとしての組織）において今後の体制や資金獲得などの検討を進める。

・これまで述べてきたとおり、本プログラムが契機となり、本学と LSHTM との戦略的パートナーシップが発展・確立したことで、世界トップレベルの研究者との複数の共同研究がはじまり、そこへ真に卓越した学生が集まってきた。例えば、感染症疫学チームのように両大学による卓越した共同研究グループが形成されると新たな研究プロジェクトの開始につながり、そこへ集まる卓越した学生は自ら奨学金を獲得できるといった好循環が生まれている。このように真に卓越した研究チームは、自立して研究を進める事が可能である。よって、合同学務委員会が、これまでどおり安定して機能し、LSHTM との Joint PhD プログラムが維持され、本プログラムの卓越性が担保される限り、今後の見通しは明るいと考えている。ただし教育には人材も含め研究と異なった資源が必要であり、一層の強化を図って行く。